

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 四季の郷

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の郷		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・愛情を持って支援するための理念を考え直し、共に過ごす、ふれ合い、安らぎ、やる気、健康で過ごして頂くよう業務に取り組んでいます。
 ・日常生活の中でタッチケアや回想法を用いて生活の援助や精神的なケアを行っています。顔なじみ同士での会話があり、落ち着いた環境の中で過ごしています。
 ・法人のデイサービスセンターと連携し、歌謡、民謡ショーや地元中学校吹奏楽部の演奏、保育園児との交流を楽しんでいます。
 ・個別対応の外出、夏祭り、バス遠足、手芸作品を地域文化祭に出店したり、サツマイモ収穫祭等、季節に応じた充実した時間を過ごしています。
 ・地元高校野球部による除雪ボランティア等継続した交流を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokemsaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=0392500062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年、職員が中心となり、これまでの法人の基本理念及び経営理念を基に理念を見直し、「愛」を支える「共に過ごす・ふれ合い・安らぎ・健康・やる気」を五つの花びらで表現した理念を作成している。職員は、新たな理念の実践に取り組み、利用者を傾聴する姿勢が職員間で統一され、信頼関係が深まったと感じている。生活の多くの時間を過ごす共用のホールで寛ぐ利用者は、寄り添う職員と共に明るく表情が豊かである。併設のデイサービスセンターと合同で避難訓練等を実施し有事における協力関係を築きながら、利用者の安全確保を図っている。地域とは、地元中学校吹奏楽部の演奏、保育園児との交流が継続され、特に、地元高校野球部生徒と父兄による除雪作業ボランティアが毎年行なわれ、利用者職員が試合の応援や練習の陣中見舞いに出かける等のほほえましい交流が継続されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム 四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い愛情を持って支援するための理念を考え直した。事業所内に掲示し、毎月の職員会議で唱和し共有している。	今年11月に職員で話し合い、これまでの理念を、イメージしやすいように「愛」を支える五つの花びらで表した理念に見直し、事業所内に掲示するとともに、毎月の職員会議で唱和したり、申し送り時に話題にし、理念に沿ったケアの提供を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元高校野球部員と父兄が雪かきボランティアのため毎年来訪している。又、大会前に野球部を訪問し激励する等交流をしている。JAハートフルワーカーズの皆さんと草取りや収穫祭を行い交流している。	地域の行事の情報は、運営推進委員から随時提供されている。地元高校野球部員と父兄の雪かきボランティアでは、お礼に練習の応援に行き父兄から礼状を頂いたり、応援に行った利用者が自分も野球部だったことを思いだしたりと、楽しい交流が続いている。畑作業では、JAハートフルワーカーズ(JA婦人部)の支援を受けて、苗の購入、植え付け、収穫を行い、収穫祭で一緒に食べて楽しんでいる。さんま300本が消費される法人全体での夏祭りには、地域の方々、利用者、家族、運営推進会議委員が参加している。デイサービスと一緒に保育園児との交流も続いている。	法人として、地域に密着した福祉事業を展開し、厚い信頼が得られている。特に、地元高校野球部やJAハートフルワーカーズの貴重な支援を受けて、利用者の豊かな生活が得られていることが窺われる。今後も、この交流が続けられることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での行事や見学会などに参加して頂き、レクや交流を通して利用者や職員と交流する機会を設けることで支援の実践方法や認知症の方への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や施設の状況報告、サービスについての取り組みを報告し意見を頂いている。季節の行事に参加して頂き、利用者の状況を伝えて助言等を頂いている。	運営推進会議は、年6回を目処に開催している。委員は、利用者、家族、民生委員、元消防署員、近隣住民、保健福祉センター職員で構成され、運営状況の報告や課題について話し合っている。委員からの意見や提案は、サービスを見直すきっかけになるなど、活発な会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の職員より認知症デザインについての事例の提案がありサービスに取り入れている。ホームの実情を伝え、協力、指導を頂いている。介護相談員が来所され会話を楽しんでいる。	町職員が運営推進会議の委員として参加しており、事業所の状況を把握して頂いている。生活保護担当者や介護相談員(2カ月に1回2人で来所)の訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一回、身体拘束委員会を開催し、身体拘束の無い支援を実践している。玄関に鍵をかけず、開いた時の鈴の音で対応している。	「身体拘束に関する指針」を策定している。身体拘束委員会を設置し、定期的に委員会、研修会を開催している。研修会では、身体拘束しない代替の行為、スピーチロック等をテーマに学習している。身体拘束に関連する緊急止むを得ない場合の対応について、重要事項説明書に明記し、サービス開始時に本人及び家族に説明している。利用者の動きは、居室ドア開閉時の鈴の音色(9部屋個々の異なる音色)、足音、靴のマジックテープの音等々で把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、社内研修会を開催し職員の意識向上に努めている。言動に気を配り支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について社内研修会を開催し制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には解りやすく説明し納得の上で契約締結して頂いている。話しやすい雰囲気を作り、不安軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見、要望を聞き入れ易い雰囲気を作り、その都度対応し日常生活に取り入れている。	運営推進会議に利用者及び家族が参加し、要望や意見を話せる機会になるよう配慮している。朝食はパンとコーヒーにして欲しいとの家族の要望にも対応している。今年の課題である運動や外出の希望にも取り組み、計画的に対応している。家族は、クリスマス会に参加し、楽しかったとの感想を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の経営会議で利用者や家族の意見、職場についての実情を報告し運営に反映させている。	毎月の職員会議で意見や提案を聴いている。管理者は内容を法人の経営会議で報告し、可能な限り運営に反映させている。今年度は職員のインフルエンザ予防注射を実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望を反映させ、向上心と責任感を持ちながら業務に当たれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が向上心を持って働けるよう、外部の研修会へ参加している。法人として資格取得に向け助成制度が整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加し情報交換している。研修後は研修報告を行い、サービスの質や意識向上につなげている。ケアカフェに参加、開催し交流を深め、ネットワーク作りをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やその関係者の方に多くの話を聞き、状況や要望、注意点を把握することで、早期により良いサービスを提供し、お互いに信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と多くの話し合いをすることにより、要望や、不安について十分に理解、把握することでお互いのより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネジャーより本人や家族の希望や要望等の把握に努めている。本人や家族と話し合いすることにより、「その時」に必要な支援を提供出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で利用者のADLを把握し、持てる能力を発揮して頂けるような声掛けや利用者同士、お互いに感謝の言葉を掛け合いながら共に支え合う環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で本人の様子を伝えている。面会時には最近の様子を伝え、家族にもゆっくと過ごして頂けるよう配慮している。また年賀状や暑中見舞い等も利用者として制作し元気な様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親戚の方が手土産を持参されることもあり和やかに過ごして頂けるよう配慮している。馴染みの場に出かけた場合には、最近の様子や昔の話をお聞きしたり関係の支援に努めている。	友人や親戚等の面会時は、夫々の居室で過ごし、アルバムで事業所での様子を見て貰っている。利用者の希望で、家族と理髪店や墓参に行くこともある。個別に外出し、自宅や馴染みのお店に立ち寄り、懐かしんでくれる利用者もいる。家族に、毎月、担当者の自筆で利用者の生活状況のお便りを出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を把握しお互いに穏やかに過ごして頂けるようなテーブル席の配置にしている。また利用者同士楽しくコミュニケーションがとれるよう職員が架け橋となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は様子を伺いに行く等の対応をしている。又逝去された方の葬儀に参列させて頂いている。本人、家族の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い情報を共有し希望や意向を把握している。意思表示の困難な方には寄り添いながら意思を推し測っている。	入居時に、利用者、家族から事業所での生活についての意向を聴いている。入居後は、利用者個々の担当者が中心になって、何気ない会話や行動、表情などから思いを汲み取り、それを職員間で共有している。問いかけに、「うん」だけの利用者もおり、食事、入浴、排泄の介助の際の様子等を観察しながら、意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査や利用者、家族が話しやすい雰囲気作りを心がけ、情報を得ている。また馴染みのある物を持ち込んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの有する能力を把握して役割を持って頂いている。体調や状態の変化に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で支援の関わりや方針について意見を出し合っている。本人や家族の思い要望等、変化に応じて計画に取り入れている。	入居時には、ケアマネージャーがアセスメントし、1か月間のケアプランを作成している。その後は、職員会議で、利用者個々の担当者を中心に、ケース記録や業務日誌等を参考に、モニタリング、カンファレンスを行い、全職員で話し合った意見や工夫を介護支援専門員がまとめ、介護計画を作成している。計画は家族に説明し同意を得ている。見直しは、原則6か月毎としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子についての気づきや実践したことを個別記録に記入し、話し合いをしている。情報を共有し支援を見直すことで介護計画に取り入れて実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が、要望や意見を言える雰囲気作りを心がけ柔軟な対応を行っている。希望に応じ外出している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる除草作業等協力して頂いている。図書館より定期的に配本サービスを受けている。地域の文化祭に作品を出品し見学に行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が訪問診療を受けており、健康状態を報告している。体調の変化がみられた際は主治医に報告し指示を頂いている。緊急時や家族が対応困難な際は職員が対応している。	訪問診療を6名が利用し、定期的に診察を受けている。診察時に家族が立会うこともある。3名は、家族がこれまでのかかりつけ医に同行し、事業所での生活状況を伝えている。緊急時や家族の対応が困難な場合は、看護師の職員が付添うこともある。日常の健康管理は、看護師が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を把握、共有し体調変化の早期発見に努めている。体調変化時は看護師に報告、相談を行い体調悪化を最小限にできるよう健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、医療機関に情報を提供している。入院中は病院を訪問し、情報交換等、連携を図り支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての指針を作成し、入居時に説明、同意を得ている。又、職員間で共有している。家族の希望により看取り支援を行う際は職員体制を整え各職種が連携し取り組む事としている。	重度化や終末期における事業所の対応について、指針を策定し職員会議等で周知に努めている。入居時に、利用者、家族に事業所の方針や医療機関との連携体制について説明し、同意を得ている。終末期の夜勤1名では職員の負担が大きく、運営推進会議で、終末期の対応について議題とし、終末期の夜勤を2名体制にできるよう話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。救急救命、AED使用の講習を社内です定期的に受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に発電機の使用確認を行っている。消防署の協力を得て年2回夜間、昼間を想定した火災避難訓練を実施している。隣接の法人事情所と合同で行っている。	町のハザードマップでは、水害等の危険地域には指定されていない。消防署立会いで、火災想定避難訓練を年2回実施している。訓練は、法人の隣接する事業所と合同で行い、地域住民の協力も得ている。夜間想定(昼間)で実施した際、常備灯が30分しかもたなかった経験をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、声掛けや対応に配慮している。プライバシー保護の研修会に参加し毎日のケアに役立っている。	プライバシー保護に関する外部研修に参加し、研修内容を職員会議で報告し、意識を高めている。利用者へは、さん付けの声掛けとしている。朝、出勤時には一人一人の顔色等を観察しながら声掛けしている。不穏な時には、利用者の手作りの作品などを褒めると、落ち着く利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーション等関りの中で信頼を築き利用者の希望や意思を確認している。洗濯干しや食器拭き等声掛け、し意思決定により行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活歴を元に、その日の体調を確認し利用者のペースに合わせ無理なく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に来院して頂き、散髪や顔そりをして頂いている。自分で身だしなみを整えられるように蒸しタオルやブラシを手渡したり、髭剃りの声掛け、剃り残しの手伝い等支援している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材で季節を感じて頂いたり懐かしい献立等を提供している。また希望の献立を聞いている。食後の片付け等を一緒に行っている。	献立は、調理担当者が冷蔵庫の食材を確認し、利用者の意見を聞きながら決めている。利用者は、簡単な下準備や食後の後片付け等、できる範囲で関わっている。行事食や郷土食の、ひつつみ、おせち、赤飯等を楽しみにしている。外出時は、小食の利用者も完食し、うなぎを食べてきたと嬉しそうに報告している。自家菜園でさつま芋、玉ねぎ、ミニトマト、かぼちゃ等を育て、献立に取り入れている。さつま芋は、苗の買い付け、植え付け、収穫、収穫祭まで、JAワークーズの支援を受け、収穫祭では一緒に賞味している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立の工夫をしている。食事量、水分摂取量を随時記録している。食事量や水分量が少ない方には好みのものに変える等、こまめに提供し確実に摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けや歯ブラシに歯みがき粉を付けて渡す、義歯洗浄を手伝う等利用者の状態に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し個々に合わせた支援を行っている。一人ひとりに寄り添い、排泄の変化に対応している。	自立に近づくことを目的に支援している。排泄チェック表を活用し、個々の時間に合わせ定期的に声掛けし、トイレに誘導している。布パンツ3名、リハビリパンツ5名、昼夜おむつ使用1名で、おむつの利用者も、トイレでの排泄を希望し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫や水分摂取量を把握し便秘予防に努めている。必要に応じて下剤を服用しながら排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴している。入浴時に楽しくかわが出来るように話題を提供している。	週3回を基本とし、午後に4名から5名が入浴している。利用者の体調や希望により、シャワー浴、清拭、足浴で対応している。介助時の会話では、どんな仕事をしてきたか、どこに行ったなど、新たな情報を得ることがある。季節の菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう居室に馴染みの物を置いたり、安らぐ香り等環境を整えている。タッチケアや声掛けで安心して眠れるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるように職員間で声出し確認し、一人ひとりに合わせた介助を行っている。薬の変更時には様子観察し、変化等の症状が見られた時はすぐに主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等一人ひとりに合った役割が定着している。窓際で日光浴しながらコーヒーを飲む等気分転換している。花の世話や裁縫、外出等日常に楽しみがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に希望に沿った外出、外食やバスハイク等の行事に参加し楽しんでいる。また家族の協力で祭りの見物や外泊を楽しまれる方もいる。	前回の評価を受け、戸外の活動を心掛け、「一人ひとりの希望や季節に応じた行事やレクリエーションを計画し楽しんでいただく」という目標を設定し達成できている。天気の良い日は、日光浴・外気浴を兼ねて敷地内を散歩し、自家菜園の手入れを行い、個別ケアでは、車椅子の利用者も含め、希望に沿った外出、外食をしている。桜や紅葉等、季節を楽しむバスハイクを実施している。家族の協力で、外泊や地域の祭りを見学してくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に希望の食品等を買物し、金銭取扱能力に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人に電話をかけたり取り次いでいる。暑中見舞いや年賀状の作成や送る支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとの行事予定や季節感のある作品、利用者の作品を飾り居心地の良い空間を作っている。窓を開け換気を行い空気清浄加湿器、エアコン等で快適な湿度や温度にしている。	事業所内は床暖房で、空気清浄加湿器、エアコンが設置され、快適な室温が維持されている。共用のホールの壁等には、利用者と職員共同製作の干支が掲示され(来年の干支のねずみは準備中)、行事の写真や地区の文化祭に出展した靴下の人形が飾られている。もうすぐ訪れるクリスマスの飾り付けもあり、季節感に溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士会話が楽しめるよう、窓辺に対面式ソファを配置したり、テーブルの配置を変えたり過ごしやすいよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた寝具等使い慣れた物を使用して頂いたり、趣味で作った作品やアルバム等を置くことで居心地よく過ごして頂いている。	各居室には、ベッド、寝具、洗面台、クローゼットが備えられている。利用者が使い慣れた椅子や整理タンス、衣装ケース、テレビを持ち込み、家族の写真、自作の手芸用品などを飾って、安心して過ごしている。室内やクローゼットは整理整頓され、清潔に管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内表示を絵と文字で分かりやすく、目線の位置に提示している。居室の名前も本人が分かるように字の大きさや位置を一人ひとりに合わせる等工夫している。また施設全体がクッション床、バリアフリー構造になっており安全に配慮している。		